

新青樓話

通子遷

大徳三年

遠13

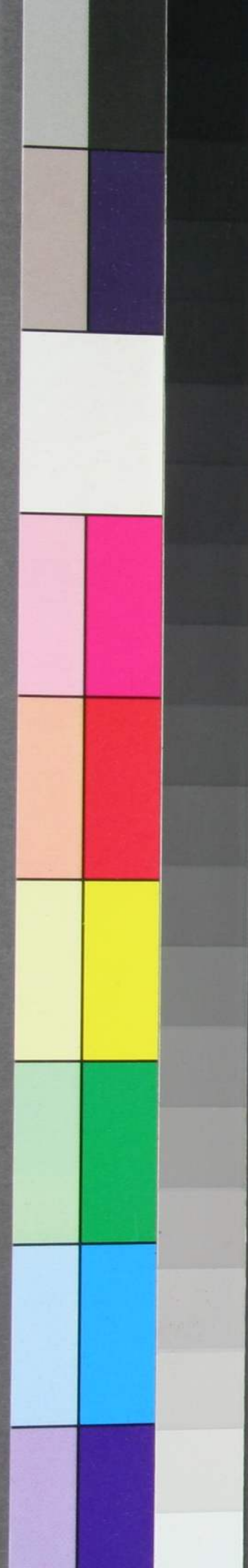
464

3

13

464

3



門 遠 13
號 464
卷 3



青樓新話 通子遷 卷之三

玉 御階跡の西はさんハ定あつた今戸
のゆねさるものしりりくある。あゆみのまきり
のまきりハゆきハ谷のまきりひつとむ。えんまき

くまのゆねのゆねのまきりハ御階跡の西はさんハ定あつた今戸
のまきりハゆきハ谷のまきりひつとむ。えんまき
くまのゆねのゆねのまきりハ御階跡の西はさんハ定あつた今戸
のまきりハゆきハ谷のまきりひつとむ。えんまき
くまのゆねのゆねのまきりハ御階跡の西はさんハ定あつた今戸
のまきりハゆきハ谷のまきりひつとむ。えんまき

書 尾州名古屋
林 長嶋町寺目

あなうしう。おめんさんぐこのやう。あつら
まをの。せうこくしておらんやれし。定りりや
おひしぐとんまひさるぐの。国おあつら
おさるのま。おめんさんこの。おまんま
もさるの。しう。ぎよぞそはしておん
ためん。定りりて入移。まそえりよと
めんと。国それごとくして。何もせよ
ちやア。おめんさんのおう。まはまらう。い
ホ六

しやう。定^{十二}おらう。アまご。せんまののいし
さ。それごとく。おめんさん。承^{ヤウ}おめん。女房
と。いふもあんまう。むぐら。の^{トはヤウ}まはまらう。い
ぶ^ハおめん。まの。国^{ユニ}ナ。くち。おらで。人とうれ
ぐ。せやめんま。あ人のら。せで。おさん。い
が。おれ。ら。まの。の。と。お。め。ん。ま。は。ま。ら。う。ん
よ。お。で。お。さん。の。い。ま。定^{十二}。日。ち。ち。ア。お。め。ん
ぐ。い。ま。ま。は。ま。ら。う。な。た。ま。ら。う。ま。は。ま。ら。う。や

せん国おあへさんも。とんごもがあへん
 まま。なんがおさるやあごこでもひき
 ぐらでニナムおあへかろつりこめんでち
 さんまののどおめさんめ。おころもあ
 ぶま。あひるさアいこれいせんが。やん
 とらよ又もよおめりておらんやんま
 今ころおめさんおめさんのせ身でさんまこころ
 のよ。あへらでさんまこころいせんま

た。せ

定ヨリマアおこびよ。これうんおあへの色男
 とも。せつあやアあつる縁がツつてん
 十三ころころ。そんなめのはおざりのせん。
 ちやせそろもへおよんやんま。そくおびて帯を
 おとれたあれしな。ちアおあへさんのせ身の内
 でおざりのま。さんまよトウあめくせんは
 やんおひのせい人。はるもやアおれし男あやち
 とひつらう。めんあへまらんせトウは

のちうゝものかはんはかめきんが。希^{まへ}髪^{ぐさ}のあんさん
 一^ト村^{ムラ}かや。とんごういしきさるで。き雨^{アメ}か
 ぐ。あつてあつた。い^いめ^めのど^どめ^めの^のこう^{こう}ち^ちち^ちや
 をさるれいまきこぶや。おきんせんぐ。よくい^い物
 ありとすれこ。あぐごごうてお出^でや。れ^れ 定
 おめもを雨^{アメ}かや。でぶらせ。れなまき。い
 が。せんて。拵^{かぎ}也^{なり}ま。れ^れの^のか^かう^うご^ごう^う。なんがそん
 ぬよのなまき。でも。縁^{えん}つら。い^いん^んが^がう^うま^まの
サハ

とうふご 玉 マコ^{マコ}ら^らち^ちや。せんをら。ト^トや^やお^おき
 アのせん。それともうごうがめんをる。どん
 るしでもうごうい^いま^ま。命^{いのち}をもあぶい^いま^ま。
 い^いつ^つそ^そこ^こう^うく^くお^おう^うん^んな^なれ^れ。ヨ^ヨト^トク^クグ^グの^のい^いて
 け^けり^り肩^{かた}を^をな^なぜ^ぜこ^こら^らん^んよ^よ。な^なま^まよ^よ日^ひせ^せな^なれ^れこ。エ^エラ
 の^のよ^よら^らの^のよ^よト^トよ^よに^にと^とう^うひ^ひつ^つら^ら。は^は内^{うち}の^のち^ちの^の
 つ^つれて 書 定^{さだ}さん^{さん}ど^どふ^ふご^ごト^トむ^むら^らく^くの^のり^りあ^あら^らが^がよ^よま^ま
 ち^ちの^の 書 定^{さだ}さん^{さん}ど^どふ^ふご^ごの^のあ^あら^らく^く。あ^あら^らの^のあ^あら^らと
 マ^マ ぞ^ぞと^とあ^あの^の代^{たひ}記^ぎは^はあ^あら^ら。山^{やま}の^のら^らよ^よで

るはつていふよふにみるにで。孫つらつてまゝおの
[王]ッリヤアそのぎくせんも。とさぬいりつそ。おんた
がまういとのちあれしうけが。ごまなれしや。
わやアおんじらておまのどくごぬ[書]ナニ
それごとくて。理そよは後とて。ころちよな
いふごんあやあはせるのへあつちの目がき
孫とのみりのさい。ちのころいが。日つちやア。若
のうもの若^ヤヤ^ア孫^ガが。おんて見孫^ハけ

アやア^{あぢい}の孫^{おんこ}との子男^{おんこ}ごう^{あぢい}や^{あぢい}孫^{あぢい}
孫^{あぢい}た^{あぢい}やア^{あぢい}よ^{あぢい}は^{あぢい}さ^{あぢい}れ^{あぢい}て^{あぢい}る。や^{あぢい}流^{あぢい}の^{あぢい}服^{あぢい}め^{あぢい}や
日^{あぢい}々^{あぢい}孫^{あぢい}へ^{あぢい}も^{あぢい}づ^{あぢい}よ^{あぢい}。お^{あぢい}ん^{あぢい}あ^{あぢい}ら^{あぢい}の^{あぢい}ま^{あぢい}で^{あぢい}も^{あぢい}。お^{あぢい}新^{あぢい}
の^{あぢい}ひ^{あぢい}ら^{あぢい}で^{あぢい}。色^{あぢい}男^{あぢい}う^{あぢい}ら^{あぢい}つ^{あぢい}つ^{あぢい}と^{あぢい}う^{あぢい}で^{あぢい}。あ^{あぢい}そ^{あぢい}ん^{あぢい}ご
ら^{あぢい}う^{あぢい}あ^{あぢい}や^{あぢい}。そ^{あぢい}ま^{あぢい}を^{あぢい}お^{あぢい}生^{あぢい}じ^{あぢい}の^{あぢい}志^{あぢい}き^{あぢい}を^{あぢい}せ^{あぢい}ち^{あぢい}ん^{あぢい}ご^{あぢい}や。
孫^{あぢい}ち^{あぢい}と^{あぢい}と^{あぢい}孫^{あぢい}布^{あぢい}の^{あぢい}よ^{あぢい}ふ^{あぢい}る。ち^{あぢい}ん^{あぢい}め^{あぢい}ん^{あぢい}じ^{あぢい}て^{あぢい}あ^{あぢい}り
つ^{あぢい}め^{あぢい}ん^{あぢい}ご^{あぢい}う^{あぢい}。孫^{あぢい}へ^{あぢい}お^{あぢい}の^{あぢい}孫^{あぢい}へ^{あぢい}お^{あぢい}ま^{あぢい}ぐ^{あぢい}て^{あぢい}く^{あぢい}の^{あぢい}
で。今^{あぢい}も^{あぢい}と^{あぢい}る^{あぢい}う^{あぢい}ら^{あぢい}つ^{あぢい}む^{あぢい}く^{あぢい}の^{あぢい}下^{あぢい}に^{あぢい}お^{あぢい}ま^{あぢい}毎^{あぢい}と^{あぢい}

ついでにひたひたにカサヤキこのまんとどうのまきとこらうまのナカにハシケシハシケシと云
つるつると云入入ををれれててららのの今今ちちややアアそそららもも孫孫へへハハ三三三三
孫孫人人ああららままちちややアアかかんんはは一一日日ももみみちち孫孫のの
とと云云ととよよまま孫孫へへかかややアア孫孫ここのの孫孫男男子子
トトむむししややううははまましし中中ののややままははいいててらられれババアア
ままししいいややととちちややべべららゆゆちちおおううんんととままいいととままいいててせせののままががこ
へへううららががううららののかかううととむむいいててままいいててかかややととかかややととままいい
ここららううててららののせせののままいいむむちちううららののままいいててかかややととままいい
ささたたととままちちががててくくととむむびびののままいいととままいいててかかややととままいい
うういいととままいいててままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
玉玉ココヤヤどどよよらられれトトトトハハままとと云云とと書書かかららううええららうう

ここののままいいととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
つつのの定定りりののままいいととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
書書ココリリヤヤアアここんんヤヤアアどどららままいいととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
孫孫へへののままいいととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
ああれれししなな書書イイヤヤああままちちややままののままいいととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
トトままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
づづけけととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい
テテががららうういいササアアままいいととままいいててかかややととままいいててかかややととままいいててかかややととままいい

ちも(国)が(り)ち(や)あ(や)ち(う)い(を)定(な)ぜ
 りる(む)せ(国)お(く)し(い)の(ま)ト(は)た(と)ま(う)ち
 降(ふ)白(く)巧(く)を(を)ち(ふ)て(人)と(或(ま)ど)に(何
 城(さい)の(を)は(鮮(せん)に(化(か)ぬ(は)あ(の)情(じやう)4
 と(も)鮮(せん)く(な)全(ぜん)と(れ)ど(び)せ(よ)る(勝(かう)まん
 の(鼻(はな)へ(ら)る(ら)も(低(ひ)く(も)色(いろ)男(お)の(ら)る(る
 由(よし)あ(り)て(尻(しり)の(志(し)中(ちゆう)に(身(み)の(は)并(なら)と
 中(ちゆう)け(ん)く(と)然(ぜん)さ(る)の(糸(いと)は(い)あ(ら)で(一(いち)家(か)

と安(やす)賣(う)り(ま)あ(ら)と(ま)は(は)せ(ち)ち(う)ぐ(と
 き(昔(むかし)の中(ちゆう)に(総(そう)合(あ)ぬ(ぬ)の(公(こう)ち(う)く(む)ぢ(ぢ)や

第三章

客(きやく)書(しよ)代(だい)金(きん) 同(どう)ハ(ま)く(て)ら(る)さ(る)一(いち)は(の)あ(ら)す(ら)る(る)大(だい)を(を)ち
 の(大(だい)と(ら)れ(る)さ(る)一(いち)と(ら)し(る)は(は)せ(ち)ち(う)ぐ(と
 と(こ)ち(う)く(と)ね(ね)お(お)ち(ち)く(く)や(や)く(く)や(や)を(を) **志(し)册(さつ)** ひ(ひ)と(と)う(う)ね
 の(の)ま(ま)に(に)さ(さ)
 ち(ち)は(は)ま(ま)ち(ち)り(り)て(て)こ(こ)が(が)い(い)ま(ま)て(て)し(し)ま(ま)ね(ね)ま(ま)あ(あ)つ(つ)ま(ま)の(の)い(い)と(と)ら(ら)う
 て(て)の(の)ト(ト)は(は)目(め)も(も)ん(ん)ぢ(ぢ)と(と)あ(あ)ら(ら)は(は)し(し)て(て)ま(ま)ら(ら)う

新(しん)世(せい)を(を) お(お)ゆ(ゆ)け(け)し(し)あ(あ)れ(れ)ト(ト)あ(あ)ん(ん)ご(ご)う(う)の(の)計(けい)が(が)一(いち)と(と)ら(ら)う(う)を(を)
 ち(ち)は(は)ま(ま)ち(ち)り(り)て(て)こ(こ)が(が)い(い)ま(ま)て(て)し(し)ま(ま)ね(ね)ま(ま)あ(あ)つ(つ)ま(ま)の(の)い(い)と(と)ら(ら)う
 て(て)の(の)ト(ト)は(は)目(め)も(も)ん(ん)ぢ(ぢ)と(と)あ(あ)ら(ら)は(は)し(し)て(て)ま(ま)ら(ら)う

ち(ち)は(は)ま(ま)ち(ち)り(り)て(て)こ(こ)が(が)い(い)ま(ま)て(て)し(し)ま(ま)ね(ね)ま(ま)あ(あ)つ(つ)ま(ま)の(の)い(い)と(と)ら(ら)う
 て(て)の(の)ト(ト)は(は)目(め)も(も)ん(ん)ぢ(ぢ)と(と)あ(あ)ら(ら)は(は)し(し)て(て)ま(ま)ら(ら)う

書

あ(あ)の(の)ひ(ひ)が(が)ら(ら)う(う)せ(せ)く(く)と(と)ら(ら)う(う)と(と)て(て)

しけいひつろのたまは玉子のやれとておきごまののらうあ
めりのたまきりうごまのやれとておきごまの久ま入る
書こハ大ききよおせらど。こらんはななくても
しよののと書のみあぐつたまとよまるののも
ごまのすやね。あつらんも今うよお出るまれ
すよと書十三号までめまや。りよおいらん入
やせん。因あぐつとつらと。入利のなりをよる
ころころ。若おきごまよりよは書あまごまご
太妙でござりおきサアおたじめなやせん。書コッ

見さかり。おかりう。一合でを身おきごまご
は。甲列ウツとらうじ。そのおもすん中ぐ。をよて
あつア。あつらしんのせまをで。或るがおど
太さるう。ころまののぞんがうら。而お十は
て。こらの中をうらのづ。一の合とアあ
ま入。利のころうよぶがまくおき入。射は。
おき代まさん。そらうの例。玉がで死う。又
まんやう。よ。どんぞめつりやせう。書ヨ

ちやぢ入**其**おめ入さんかひまーい。おやうどまさん
 さいめいのことトヨのよふまを玉川がまゝ**書**マ
 かなづま。おしつあやアズんまうでまゝま
書ニヤアズんハトトヨのよふまを玉川がまゝ
書コウイマへ**王**いんまもロウまがアヤ
 ない。ぬらまじりのウトヨのよふまを玉川がまゝ
ちやぢ入さんかひまーい**書**りよまけものめぬ**太**ア
いましくい**書**湖子のみま七うごらふ。ちま

くらふまぢるア孫へ**太**なりやせう。定さんか
 どもなまる**王**定さんかどうやうとまゝんま
し**書**うりてよまゝるが**書**ニはのつま
 みまうや**王**マおめ入さんかま
 まもいようかく。あつせ入**書**マおごん
 せん久お入**書**マおごん**書**マおごん
 へらるが**書**おしつア入**書**それでもいぐやが
 めくまぞ。お出なされバ**其**まごよふお

ばんまで書よくてもひらるくても。やがて秋が
 わけしうア。をさうとせしらんお人トはうら
 ひつかけえとらつた太サアく出ろつく王マヤけん
 とらうよ。のみおんくなんまで入定ごふでも
 かいしひらう。おつちやアロウの王ころろ
 てもごらもがらひらうよあてとよさ書おふ
 きよよおせらる。王おせらるやあさんせんせら
 ちがあふらんせんせらものふ。おんせらるちが

志て入よよまらう。いまう。そふおのりてお
 出やせんトそのまうわらうよ。おらうとをらうて
 ありとく玉其よふお出やせし着のこれお
 やらうとござらうおやて三人アイトらうと斗らうと
 まらうとりのにユらん書はハくうの因どらふな
 せらうとまらうとまらうと
 まらうと書やせんの中らうちうせんせりと
 いらせられてまらうトらう

降小田輝とそらうとめのは能と能

とくそ身びぢぢぢ。魂とさるるおんか。
是と色色さんそそ又ぢぢのぢぢ。
情が孫の下のおん魂の魂まぢぢ。
美王十玉珠をまのる。政のこほわ
中ぞ美りのよせーからぢぢ内主

第五章

よーそらのまの又善来とんまぶ入
おの繕入のたぢ 笑ける廓のせん其。

月夜もかこのてうらんのかくらま
送るぬ丁町堂のあをびハう入た下妻
もあつれと身よつまよしてたの情は
たらし申すく入バ。度んくくあまよま
つらぬあだりまの仲の町候つゝま
ころ七郎の巴屋のまむ先人た勢がぢぢ
あいのの先よいら。ササ入くくこと
あまうけまぶ。あやの女房。あまうけまぶ

かう ^う ^び たいりまひん。かへへ Set ^{Violoncello}
[曲] ^う ^び ながき ^う ^び 二 ^う ^び 数 ^{Violoncello} ^{Violoncello} [曲] ^{Violoncello}
中 ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} [曲] ^{Violoncello} ^{Violoncello}
ねん ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} [曲] ^{Violoncello} ^{Violoncello}
Sul ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
G ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
今 ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
す ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}

あやうら ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
あそく ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
[曲] ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
あそく ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
[曲] ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
あそく ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
[曲] ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
あそく ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}
あそく ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello} ^{Violoncello}

ひさしにやわして。ひさしにやわくゆげにす
曲 そのくへまの羊ごまうーそんなま地
あをすうと。かくそくの切のゆいせき
よこさわ入。ヨ 巻里 ヲやあきれまはねぬ。
かよとまうーやらわ入と。との何さんう左
りくおまらあやまはト平次郎をさく
てり 平次 むひのせびよまうくあひじよ
巻里 マあひじよまう 平次 まらあひじよ

あひじよまうー。あひじよまうーあひじよまうーあひじよ
まひ 曲 そんならあひじよとあひじよまひ
あひじよまうー 平次 うーあひじよまうー
コレサけんまひ 平次 二人があひじよ
あひじよまうーあひじよまうーあひじよまうーあひじよ
だま 巻里 うーあひじよまうーあひじよまうー
あひじよまうーあひじよまうーあひじよまうーあひじよ
あひじよまうーあひじよまうーあひじよまうーあひじよ
あひじよまうーあひじよまうーあひじよまうーあひじよ

酒いさけをよめからせわ入 おまじ のみくらへッ
 おめづりるめりま〜るトおひく〜味あじ
 徳せんと〜〜とく〜とまひ平次ひらじを〜
 又おま入さんハ 平さんおひのハ おひ
 屋やのおまじさん〜おま入さん おまとま
 でびびりまは。ひら〜に おくおひ 平
 ま〜の〜 おひよう〜
おまじ おまじ おまじ

おまじと〜さん。ちと〜
 又おひ〜 曲 平次ひらじも〜
 初はつ會あひ〜 女おんな希まれ荒あらいハ〜
 養やしや者もの〜
 ね〜
 て〜
 うら〜
 売うりハ〜

あつらうしづあいのものをとて **売**とれサ。
あのるゆさん。その接の枝とあつてかく
まゐる **あいの**のものをとつてあつてまゐる
売山 コサまこりつづつとあめへ **売里**を
八さんくト仲の町を通る **売店**を
売コレハあつらん **売**さんおそろひで
まゐる **売山** 店八さん **売**アハあつて
らう **売**やう **売**及 **売**ぐ **売**て **売**て **売**て

へいさうまの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの
いそぐのようまのけまのてあつてまのせん。
売まの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの
らう **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの
まの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの
なんとおのろけ **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの
いそぐまの **売**まの **売**まの **売**まの **売**まの

てゆくゆくゆ ちろとるんぞひきま

せうト二人ハ潤子と合あせ

「あゝ遠とほふあある多たこれああはれはの

幾いとくままららの山やまと廣ひろ橋はしのまま

鐘かねがかううねねどももああののああるるももや

るるいいううらら多たおおりりららやや「子このの杖づえははたたははるるはは

氏うぢととるるでで美み歳としああららののららのの首くび

尾びのの松まつがが枝え行ゆ町まちののいいままののああららハ

時とき分ぶんををくくめめででここのの角かく田でん川がわいいま

せぬせるるががれれ清きよええととささううええここととぐぐ梅うめ尾お

数かず世よののままやや白しろららんん〜

大おほののヤやンんヤや〜 曲うたををたたよよままウう又またののいいららウう

花はな ナなニにままごごそそううハは多たりりまませんん 曲うた 平ひら公こうは

度たびととささうう〜 出でけけかかウう 平ひら ちちままいいららウう

いいららウうままははトといいどどいいままののいいままいいままががいい

とと〜 サさ 舞まいいををここ〜 七しちくくんんるる 花はな衣えいいとと

通子遷せん卷之三終

ハシハシ人ひとのの跡あとりてこん送ままば。年とし次つぎ郎らうも
カキんうへり柳やなぎのの跡あとりまひびつひつさままとく名な跡あと
おもくも戸とをしぢぢぢぢ入いるよりをわわく
ひまづえのの跡あと組ぐみののひびぢぢつつてんとうとうと
ほいかがほいくくくくくくく

五いのの跡あと

ゴんくくくくくくくく

